

陳情第127号	受理年月日	平成27年12月7日
付託委員会	総務財政委員会	
陳情者	八幡東区尾倉三丁目3-22 八幡市民会館と八幡図書館の存続問題を考える会 代表者 三崎 英二	
件名	八幡市民会館の廃止方針の撤回について	
要旨	<p>当会は、八幡市民会館と八幡図書館がかけがえのないものであって、決して廃止・解体の対象にしてはならないと考え、1年6カ月を超えてもなお存続を求め続けている。</p> <p>八幡図書館は、豊かな木々を挟んで並び建つ市民会館とともに、旧八幡市における文化センターのシンボルとして計画された歴史と伝統のある建物であり、移転により全国的にも生涯学習の中心であったころの貴重な資料が廃棄され、散逸することを懸念している。</p> <p>建物壁面の特徴ある幾何学模様は、れんがタイルと焼きれんがの張り合わせで、四角い建物に縦横にデザインされ変化を持たせている。特にれんがは、八幡製鐵所の鉋さいを使った鉋さいれんがと耐火れんがの組み合わせになっている。</p> <p>更に、本市は東京都と並ぶ建築都市であり、近現代の建築史を語る建築物が全てそろっている。しかし、廃止・解体すると、その歴史が途絶え、空白が生じる。</p> <p>現八幡図書館の整備改修に必要な費用2億7,000万円は、大きな財政負担であると言いながら、なぜ、九国大旧交流センターの購入に3億5,000万円、移転整備に2億円もの費用をかけるのか。この費用を現図書館に投入すれば十分な整備ができると考える。しかも、旧交流センターは、市の所有地を九国大が借地して建てたものである。市が病院移転を決めた時点で、更地にして返還するよう求めるのが一般常識である。</p> <p>八幡図書館の移転計画は、旧交流センターを無理に使う方策でしかない。移転後の図書館の左側は救急車の進入路、右側は病院への通路、上</p>	

(続 く)

部は病院施設である。歴史的・文化的価値の高い現八幡図書館を生かし
充実するよう計画は見直すべきである。

については、次のとおり措置していただきたい。

記

- 1 八幡市民会館廃止・八幡図書館解体を決定した経緯や審議内容を直
ちに開示すること。
- 2 経緯や審議内容が開示されるまで、八幡市民会館の廃止の効力を停
止すること。
- 3 開示ができない場合は、八幡市民会館の廃止方針を撤回すること。